

経済・金融 フラッシュ

【東南アジア経済】

ASEANの貿易統計(10月号)

～7月の下振れは一時的。底打ちの動きは継続。

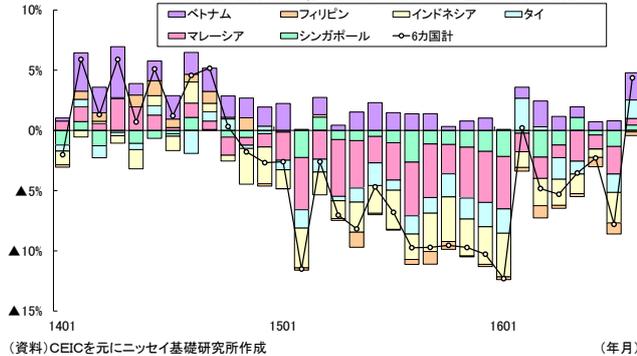
経済研究部 研究員 齊藤 誠

TEL:03-3512-1780 E-mail: msaitou@nli-research.co.jp

16年8月のASEAN主要6カ国の輸出（ドル建て通関ベース）は前年同月比4.4%増と、前月の同7.8%減から大きく上昇してプラスに転じた（図表1）。8月の輸出は全6カ国で上昇したが、7月の下振れからの反動増の影響もあると見られ、輸出が底打ちしたかどうかは次月以降の結果も合わせて見ていく必要があるようだ。

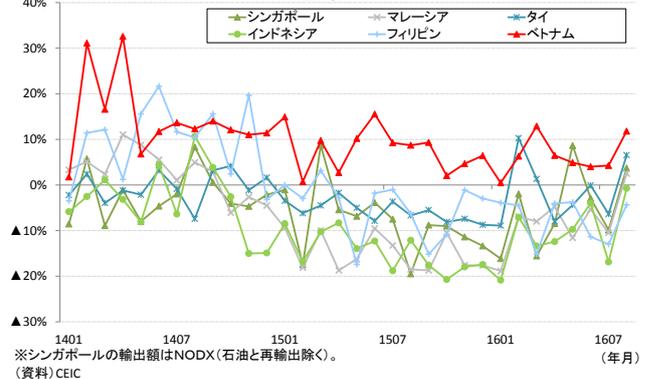
(図表1)

(前年同月比) ASEAN6カ国合計の輸出の伸び率(国別寄与度)



(図表2)

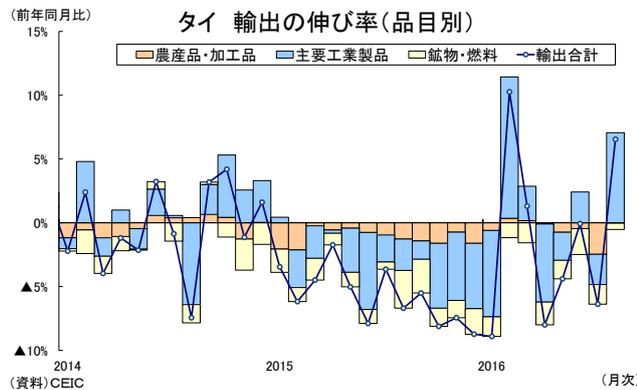
(億ドル) ASEAN6カ国 輸出の伸び率



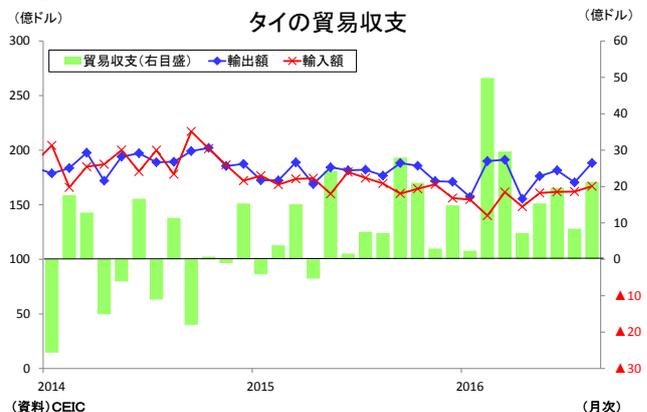
タイの16年8月の輸出額は前年同月比6.5%増（前月：同6.4%減）と、前月の急落から一転して増加した（図表3）。輸出数量指数も同3.0%増（前月：同4.8%減）と増加に転じた。

品目別に見ると、主要工業製品は同9.0%増（前月：同3.1%減）と2ヵ月ぶりのプラスに転じた。自動車・部品（同34.5%増）をはじめ、電子製品・部品（同1.7%増）、家電製品（同13.5%増）、機械・装置（同3.3%増）など幅広い品目がプラスに転じた。また農産品・加工品は同0.2%減（前

(図表3)



(図表4)



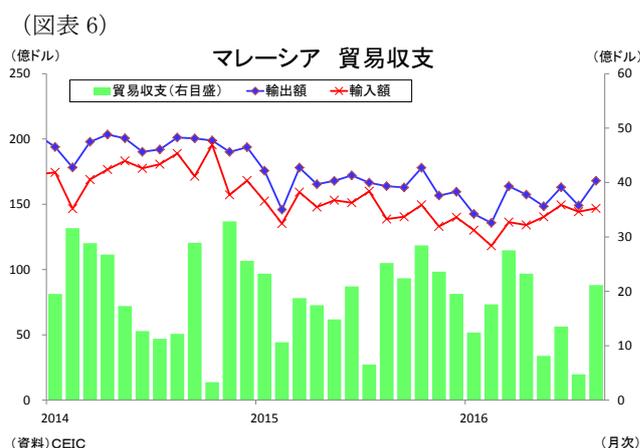
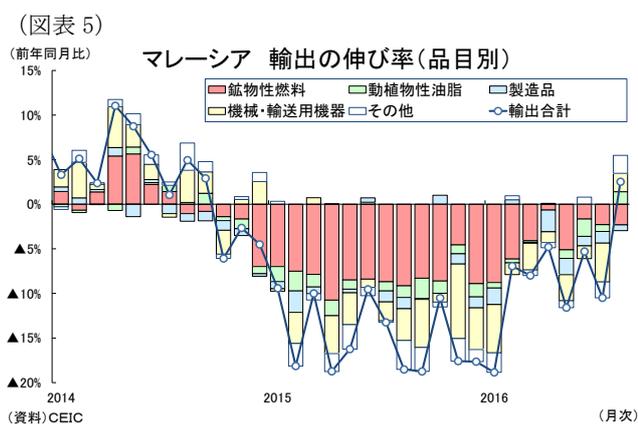
月：同14.2%減）と、ゴム（同34.8%減）や砂糖（同21.1%減）の減少こそ続いているが、コメ（同0.2%減）を中心にマイナス幅が縮小した。さらに鉱業・燃料（同11.9%減）も引き続き前年割れながらも、石油製品を中心にマイナス幅が縮小した。

8月の輸入額は前年同月比1.5%減と、前月の同7.2%減から上昇した。結果、8月の貿易収支は21.3億ドルの黒字と、前月から12.9億ドル黒字が拡大した（図表4）。

マレーシアの16年8月の輸出額は前年同月比2.5%増（前月：同10.5%減）と、23ヵ月ぶりにプラスに転じた（図表5）。前月まで減少傾向が続いていた機械類と動植物性油脂が増加に転じて全体を押し上げた。また輸出数量指数についても同3.9%増と、前月の同2.0%減から増加に転じた。

品目別に見ると、全体の約4割を占める機械・輸送用機器が同4.7%増（前月：同10.2%減）と、集積回路や電気機械・部品を中心に大きく上昇し、17ヵ月ぶりのプラスに転じた。また動植物性油脂も同22.0%増（前月：11.1%減）と、パーム油を中心に上昇してプラスに転じた。一方、鉱物性燃料は同16.2%減（前月：同15.3%減）と、天然ガスを中心に低下した。

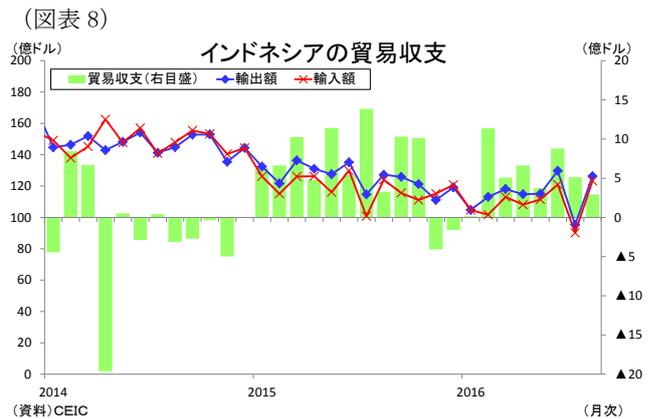
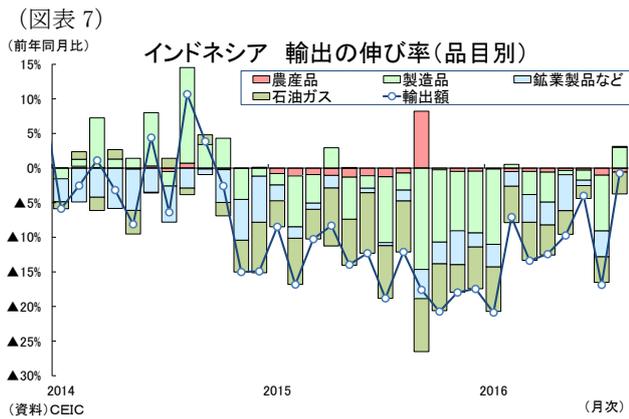
8月の輸入額は前年同月比5.9%増と、前月の同9.8%減から上昇した。結果、8月の貿易収支は21.2億ドルの黒字と、前月から16.4億ドル黒字が拡大した（図表6）。



インドネシアの16年8月の輸出額は前年同月比0.7%減（前月：同16.9%減）と上昇した（図表7）。前月は鈍い海外需要と資源の価格低迷、レバラン（断食明け大祭）に伴って営業日数が少なかったことから急低下したが、8月は大きくマイナス幅が縮小した。また輸出数量は同7.5%増（前月：同4.6%減）と、再びプラスに転じた。

品目別に見ると、輸出全体のそれぞれ1割強を占める石油ガスが同26.3%減（前月：同29.8%減）と引き続き全体の重石となっているものの、製造品が同4.2%増（前月：同11.5%減）と機械類を中心に上昇して6ヵ月ぶりに増加に転じた。また鉱業製品も同0.9%増（前月：同25.4%減）と15ヵ月ぶりのプラスに転じたほか、農産品は同17.6%減（前月：39.5%減）とマイナス幅が縮小した。

8月の輸入額は前年同月比0.5%減と、前月の同10.6%減から上昇した。結果、8月の貿易収支は2.9億ドルの黒字と、前月から2.2億ドル黒字が縮小した（図表8）。

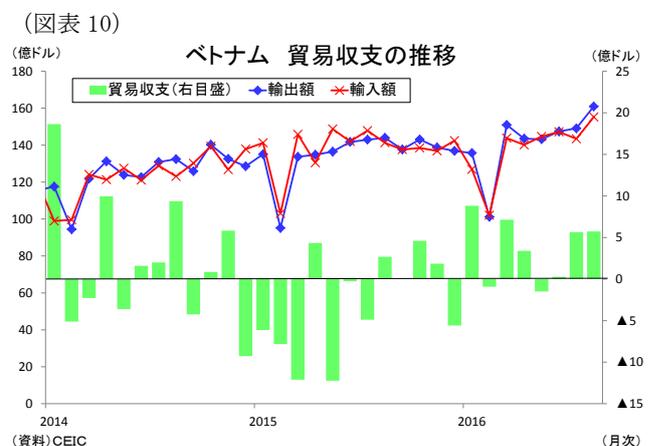
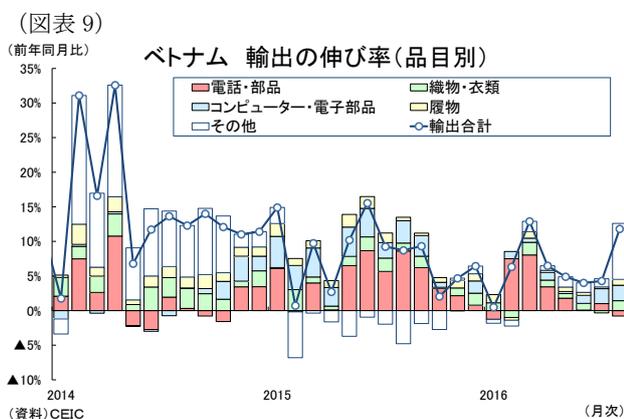


ベトナムの16年8月の輸出額は前年同月比11.8%増(前月:同4.3%増)と軽工業製品を中心に上昇して5ヵ月ぶりの二桁増を記録した(図表9)。

品目別に見ると、輸出全体の約2割を占める電話・部品が同3.7%減(前月:同5.7%増)と7ヵ月ぶりのマイナスとなったものの、織物・衣類が同9.1%増(前月:同2.0%減)、履物が同12.6%増(前月:同3.4%増)とそれぞれ大きく上昇した。またコンピュータ・電子部品は同22.6%増(前月:同25.3%増)と小幅に低下したものの、高水準を維持した。

資本別に見ると、輸出全体の7割を占める外資系企業が同8.4%増(前月:同5.0%増)と上昇したほか、地場企業も同3.4%増(前月:同0.7%減)と3ヵ月ぶりのプラスとなった。

8月の輸入額は前年同月比9.9%増と、前月の同3.0%減から上昇した。結果、8月の貿易収支は5.7億ドルの黒字と、前月から0.1億ドル黒字が拡大した(図表10)。

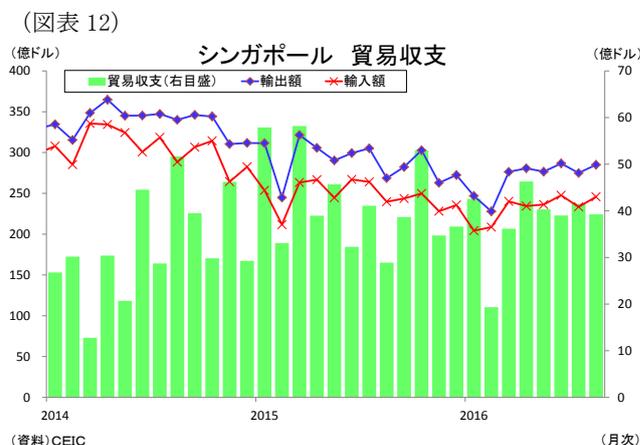
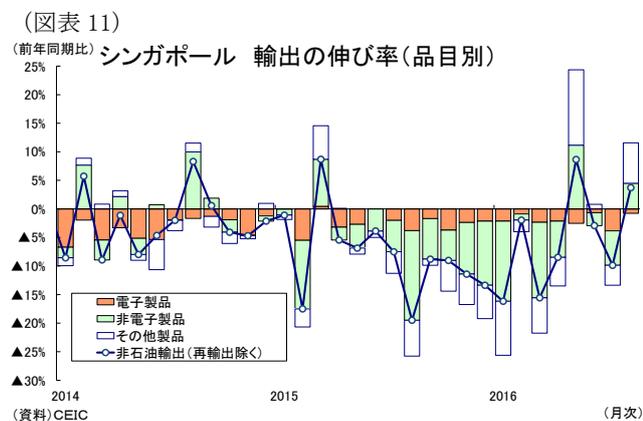


シンガポールの16年8月の輸出額(石油と再輸出除く)は前年同月比3.7%増(前月:同9.9%減)と増加に転じた(図表11)。輸出の伸び率は上下に振れる展開であるが、総じて年明け以降の底入れの動きは続いていると言える。

品目別に見ると、輸出(石油と再輸出除く)全体の約3割を占める電子製品は同2.5%減(前月:同12.3%減)とマイナス幅が縮小した。通信機器(同13.4%減)やPC(同18.6%減)、PC部品(同4.5%減)の減少は続いているものの、IC(同1.7%増)とダイオード・トランジスタ(同1.3%増)が上昇した。また同じく全体の約3割を占める化学製品は同8.2%減(前月:同8.6%減)と小幅に

上昇したものの、医薬品と石油化学製品が二桁減となった。その他製品が同19.0%増（前月：同8.9%減）と大きく上昇して再びプラスとなった。

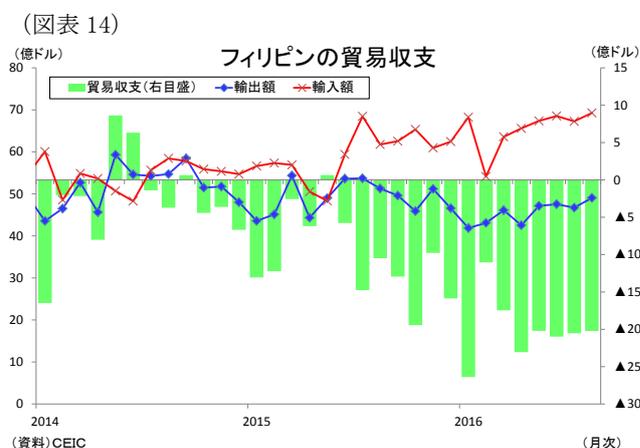
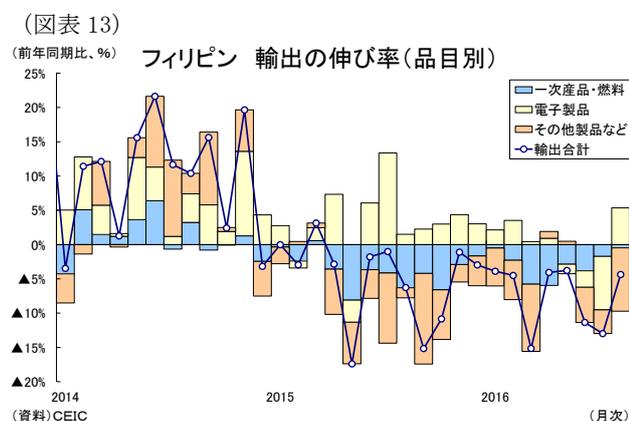
8月の輸出額は前年同月比6.1%増（前月：同9.9%減）、輸入額は前年同月比2.5%増（前月：同11.6%減）と、それぞれ上昇した。結果、8月の貿易収支は39.2億ドルの黒字と、前月から1.3億ドル黒字が縮小した（図表12）。



フィリピンの16年8月の輸出額は前年同月比4.4%減と、前月の同13.0%減から上昇した（図表13）。輸出の牽引役である電子製品が4ヵ月ぶりに増加に転じたものの、幅広い品目が減少傾向にあり、引き続き輸出の停滞懸念は燻っている。

輸出シェア上位10品目を見ると、まず輸出全体の約5割を占める電子製品は同11.6%増（前月：同14.9%減）と、4ヵ月ぶりのプラスに転じた。電子製品の中では、電子データ処理機が同29.9%増と5ヵ月連続の二桁増となったほか、半導体デバイスも同11.2%増と6ヵ月ぶりのプラスに転じた。その他9品目を見ると、イグニッション・ワイヤーセット（同12.9%増）とその他鉱産物（同2.3%増）こそ増加したものの、機械・輸送用機器（同52.5%減）、金属部品（同25.9%減）、化学（同16.2%減）、アパレル（同11.3%減）、その他製造品（同9.3%減）、木工品・家具（同8.8%減）、ココナッツオイル（同6.9%減）など幅広い品目が減少した。

8月の輸入額は前年同月比12.2%増と、前月の同1.7%減から上昇した。結果、8月の貿易収支は20.2億ドルの赤字と、前月から0.2億ドル赤字が縮小した（図表14）。



(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。